

原 著

当院と病理センター間で行われている、 術中迅速病理診断画像伝送の変遷

渡 邊 直 樹* 本 田 信 代* 関 秀 雄*

平成10年12月より、ISDN回線を用いたNTTのPhoenix2000HXシステムにより、術中迅速病理診断の補助として開始された画像伝送ですが、検体数や症例数も増え、それらを調査、集計いたしましたので御報告いたします。

キーワード：術中迅速病理診断、画像伝送、ISDN回線

はじめに

平成10年12月より、ISDN回線を用いたNTTのPhoenix2000HXシステムにより、術中迅速病理診断の補助として開始された画像伝送ですが、検体数や症例数も増えました。

それらを調査、集計しましたので御報告いたします。

— 調査対象

平成10年12月の開始より、平成12年11月までの間に、当院と病理センター間で行われた画像伝送299件について集計しました。

調査集計の結果

表1、2、3より症例として一番多かったのはGastricCancerの111件となりました。次にColon Cancerの51件、Breast Cancerの47件と続きました。

(表1)

症 例	H10年12+2月	3月	症例合計	
Colon_Cancer	3	1	4	
Gastric_Cancer	4	1	7	
Breast_Cancer	2	1	4	
Rectal_Cancer	2		2	
Thyroid_Cancer		1	1	
Esophageal_Cancer			0	
Stenosis_of_cysticduct	1		1	
Insulinoma		1	1	
SMT_of_the_stomach		1	1	
Struma_goiter		1	1	
GB_polyps			1	
Hyperparathyroidism		1	1	
Cholelithiasis				
Pancreatic_Cancer				
Thyroid_cyst				
Stricture_of_the_common_bile_duct				
Stenosis_of_jejunum				
Rectal_polyp				
子宮内容物				
Gallbladder_Cancer				
Cecal_Cancer				
Ovarian_Cancer				
Duodenal_ulcer				
合計	12	7	5	24

平成10年度 総数 24

また、送信件数も図1、2、3、4の示す通り、月を追うごとに増加しており、最近16ヶ月間の検体数の変遷を検討し、

以下の表5、図5にて表しました。それにより相関係数0.8277となり、検体数の増加傾向を示すことが出来ました。

これにより、システムの運用が順調であることが示されます。

(表5) 最近16ヶ月間の検体数の変遷に関する統計的検討
相関係数0.827755で下図の如くに検体数は増加傾向を示すことが示唆できた

検体数

回帰統計	
重相関 R	0.827755
重決定 R ²	0.685179
補正 R ²	0.662692
標準誤差	2.14182
観測数	16

分散分析表

	自由度	変動	分散	検定されたF値	有意P
回帰	1	139.7765	139.7765	30.46968	7.55E-05
残差	14	64.22353	4.587395		
合計	15	204			

	係数	標準誤差	t	P-値	下限 95%	上限 95%	下限 95.0%	上限 95.0%
切片	8.55	1.12318	7.612314	2.43E-06	6.141016	10.95898	6.141016	10.95898
経過月数	0.641176	0.118167	5.519935	7.55E-05	0.392045	0.890308	0.392045	0.890308

残差出力

観測値	予測値	残差	標準残差
1	9.191176	1.808824	0.874168
2	9.832353	1.167647	0.5643
3	10.47353	2.526471	1.220992
4	11.11471	-0.11471	-0.05544
5	11.75588	-2.75588	-1.33186
6	12.39706	0.602941	0.291369
7	13.03824	-4.03824	-1.9516
8	13.67941	-0.67941	-0.32835
9	14.32059	-1.32059	-0.63821
10	14.96176	-2.96176	-1.43138
11	15.60294	0.397059	0.19189
12	16.24412	0.755882	0.365303
13	16.88529	3.114706	1.505274
14	17.52647	2.473529	1.195407
15	18.16765	-1.16765	-0.5643
16	18.80882	0.191176	0.092392

考 察

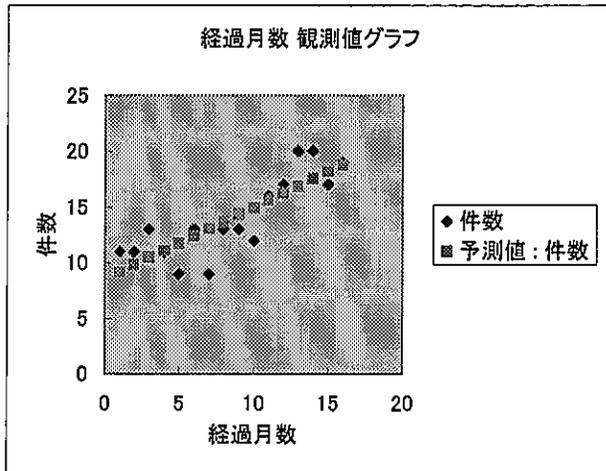
現在のシステムは、従来のISDN回線を利用したPhoenix2000HXを使用しております。

システム運用は順調ですが、これからの社会情勢の変化や情報インフラの整備により、回線のブロードバンド化、無線化、光ファイバー通信網の一般化などにより、画像や動画などの大容量情報の送受信が可能になっていき、これからも大きく改善発展されていくと考えられます。

ゆえに、それらに対応したシステムの再構築と、より一層の利用拡大がこれからの課題と考えます。

*〒945-8535 新潟県柏崎市北半田2丁目11番3号
羽羽郡総合病院

(図5)



謝 辞

稿を終えるにあたり、本集計や日々の業務に際して御指導くださった病理センターの五十嵐俊彦先生や職員の方々、また当病院の斉藤六温先生を始めとする外科・婦人科の諸先生方、そして手術室の職員の方々に対しまして厚く御礼申し上げます。

Original article

Image transmission between our hospital and a pathology center for immediate intraoperative pathological diagnosis

Naoki Watanabe* Nobuyo Honda* and Hideo Seki*

Image transmission was started with the NTT Phoenix 2000HX system using an ISDN circuit in December 1998 to facilitate immediate intraoperative pathological diagnosis. A fair number of specimens and cases whose images have been transmitted from a pathology center to our hospital have been accumulated. We report the results of the analyses of the specimens and cases.

Key words : immediate intraoperative pathological diagnosis, image transmission, ISDN circuit

*Kariwa General Hospital
Kitahanda 2-11-3, Kashiwazaki, Niigata 945-8535